

## 第 199 回友の会 鴻ノ巣山

### ★山背古道を歩く

日時：2021 年 12 月 19 日(日)

集合：JR 奈良線 城陽駅

天候：くもり

参加者：43 名（内子供 1 名、スタッフ 12 名）



鴻ノ巣山の展望台にて

京都も寒い日が続き、今日も朝から愛宕山が雪化粧しているのを電車の車窓から眺めて集合場所へ向かいました。スタッフは 30 分前集合、寒い中多くの人が参加した今年最後の観察会でした。



シイノキ林の参道を見上げてみれば…

今日のコースは JR 奈良線城陽駅を起点に木津川まで続く山背（やましろ）古道に沿って歩き、鴻ノ巣山（海拔 117.9m）頂上から別ルートで水度神社まで引き返します。

城陽駅から市街地を抜けて水度神社の鳥居へ向かう道は、その途中に多くの種類の街路樹が生えており、説明しながらゆっくり進みました。水度神社境内では、シイノキ林の参道途中で上を見上げ、枝が重ならず日光を無駄なく活用している頭上の枝模様を目撃し一同感動。

本殿前ではダイオウショウの落ち葉 1 人 1 本を手にとってもらい、「松（ダイオウショウ）」についての話が始まりました。世界一長い葉を持つダイオウショウは 3 葉の松で、元々日本には自生していないこと、他に自生の 2 葉や 5 葉松を交えての松葉の話、短枝の話などがありました。

その先は山背古道を鴻ノ巣山散策道に沿って展望台へ向かいます。途中、綺麗に黄葉したコシアブラやタカノツメを眺め、道際に咲いた時忘れのモチツツジでは、粘液で花にたどり着けなかった小さな虫達は何種も観察できたことで、寒い中、改めて昆虫の活動を再認識。展望台からは、正面に男山や天王山を望みその右側に愛宕山がくっきりと確認できましたが、そこは風もあり寒くて足早に通過です。



ダイオウショウの落ち葉を片手に

松の話に耳を傾けました

今回の店開きでは、モチノキ科の色々な話  
に分かりやすく説明されていました。

今日のリーダー辻さんと清水代表が資料や実物を前



モチノキ科の話を聞きました



店開きの様子



カナメモチの実は赤色

ナナミノキも赤い実



トウネズミモチには黒い実

展望台付近で山背古道から分かれて水度神社に帰る散策道は地域ボランティア団体が普段から整備してあり、地元の人々の散歩コースにも成っている歩きやすい道でした。

市街地での観察は、ナンキンハゼ、ヤブラン、ヒマラヤスギ、ウバメガシ、エノキ、ワジュロ、アオツヅラフジ、レンギョウ、マサキ、イロハカエデ、カイズカイブキ、ケヤキ、クスノキ、アラカシ、ムクノキ、ナナミノキ、ヒイラギ、キンモクセイ、カナメモチ、センダン、クロガネモチ、イボタノキ、カラスウリ、ビクリグミ、ミカン科(実)、ノブドウ、ヤツデ、トウカエデなど。

水度神社境内での観察は、サカキ、イヌマキ、ツブラシイ、コウヨウザン、ツガ、ダイオウショウなど。散策道での観察は、コナラ、ネジキ、タカノツメ、ソヨゴ、ウワミズザクラ、モチツツジ、ヒサカキ、クロバイ、シャシャンボ、ミツバツツジ、コシアブラ、ヤブニッケイ、ツブラジイ、イソノキ、ネムノキ、ヌルデ、ヤマモモ、ヤマウルシ、サンキライなどでした。(文責 古結)



ヒマラヤスギの球果



どうして、こんな幹になったんだろう？  
いろんな想像してみてください



黄葉したタカノツメ



時忘れのモチツツジ



モチツツジの粘液で花にたどり着けなかった虫たち



コウヨウザン



ヌメリイグチ



シモコシ or キシメジ